

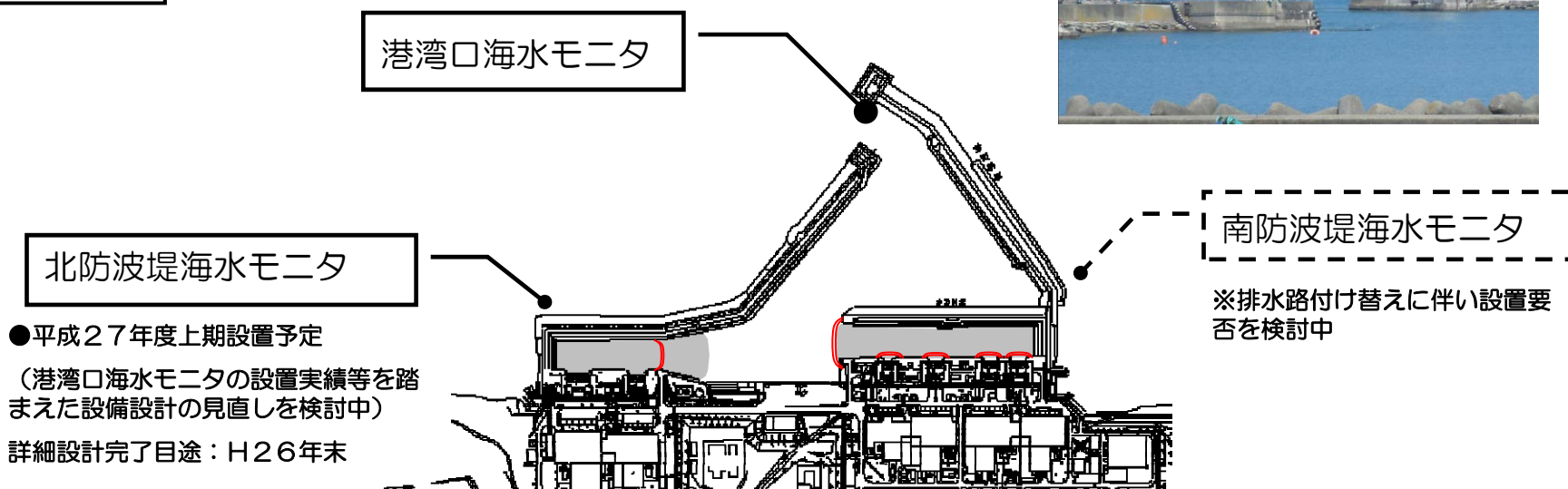
# 1-1. 海水放射線モニタの目的

< 参考資料 >  
平成26年9月11日  
東京電力株式会社

## 目的

定期的に実施している海洋モニタリングを、常時行うことで傾向監視の頻度を高めること、また、万が一、福島第一の敷地から海洋への新たな漏えいが発生した場合の影響把握を行うことを目的として、主要核種のセシウム134、セシウム137およびベータ線核種を対象とした海水放射線モニタを設置する。

## 設置場所



## 1-2. 海水放射線モニタの概要

- ▶ 港湾口の海水放射線モニタは灯台付近の防波堤に設置。
- ▶ 9月4日より試運転を開始し、3ヶ月程度の試験運用期間において、測定データの検証や運転トラブルの洗い出しを実施する。

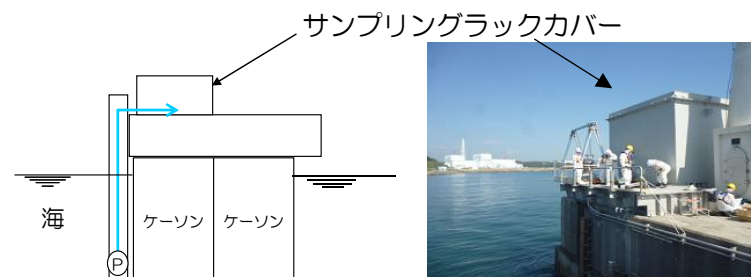
### ○測定感度

#### ① セシウム134,137 : 0.1 Bq/L (目標)

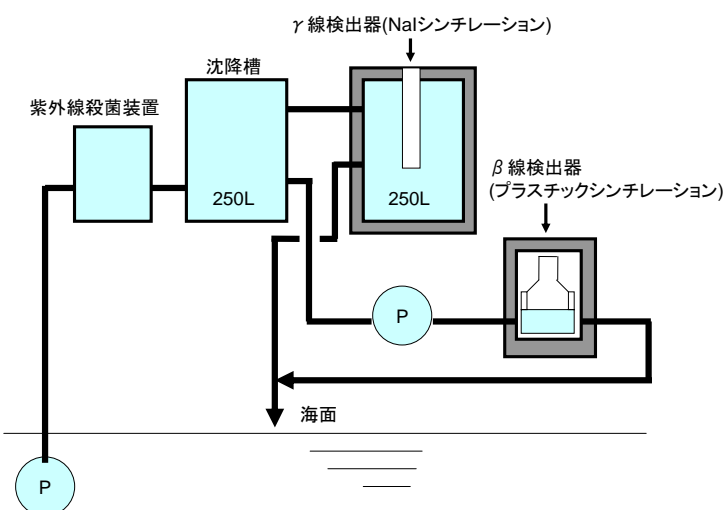
海水モニタ設置想定場所における海水中セシウム134,137濃度が把握可能なレベルに設定（規制委員会からの要求レベル、測定の実行可能性を考慮）

#### ② 全ベータ放射能 : 10 Bq/L (目標)

海水中ベータ線核種のカリウム40が、約10Bq/Lあることを考慮して10Bq/Lに設定。ストロンチウム90については、現状技術では連続測定不可。



海水放射線モニタ設置イメージ図（断面図）



海水放射線モニタ系統概略

## 2-1. 海底土被覆工事の概要

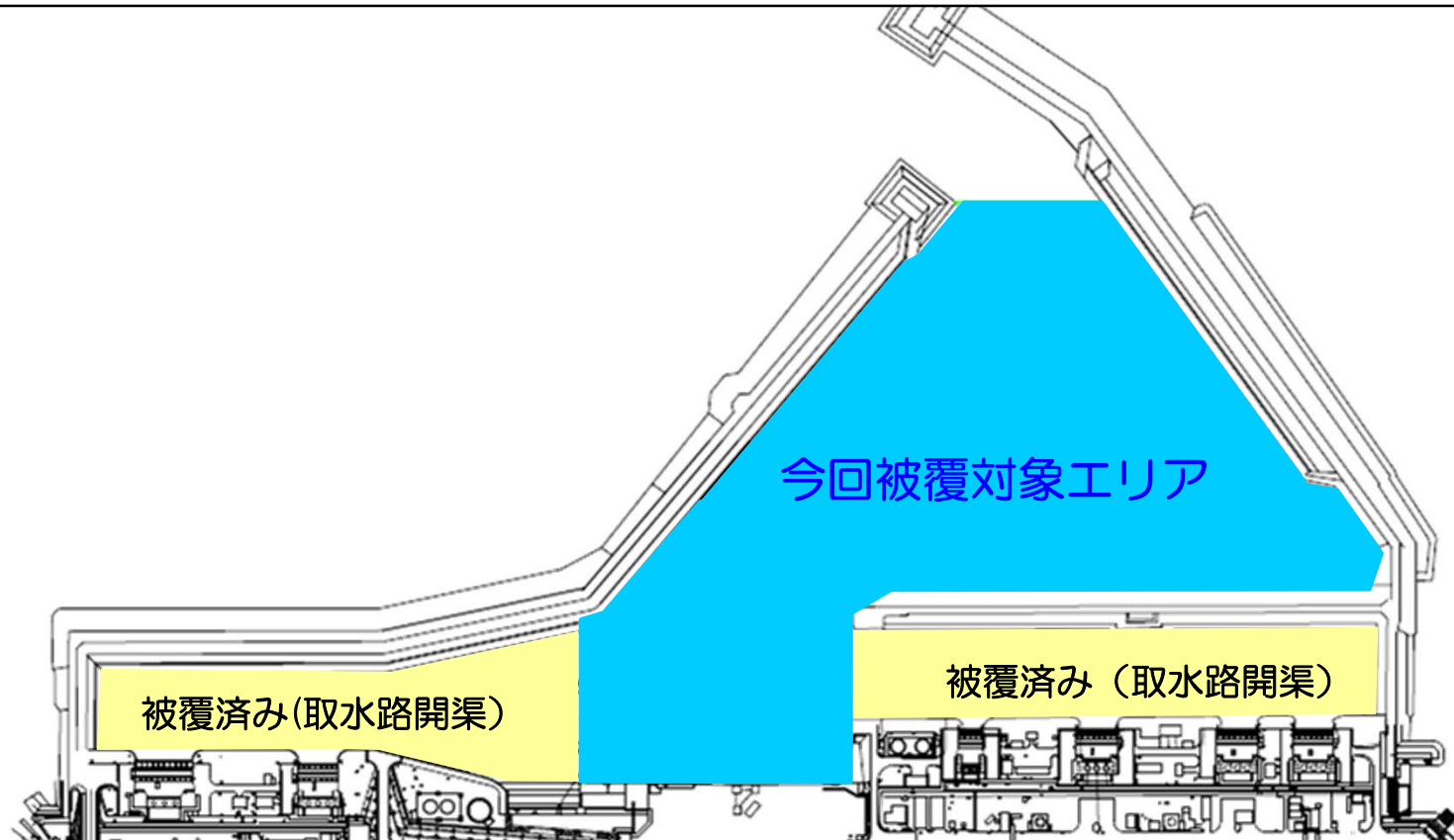
### <工事概要>

目的：港湾内海底面を被覆し、海底の汚染物質の拡散を防止する

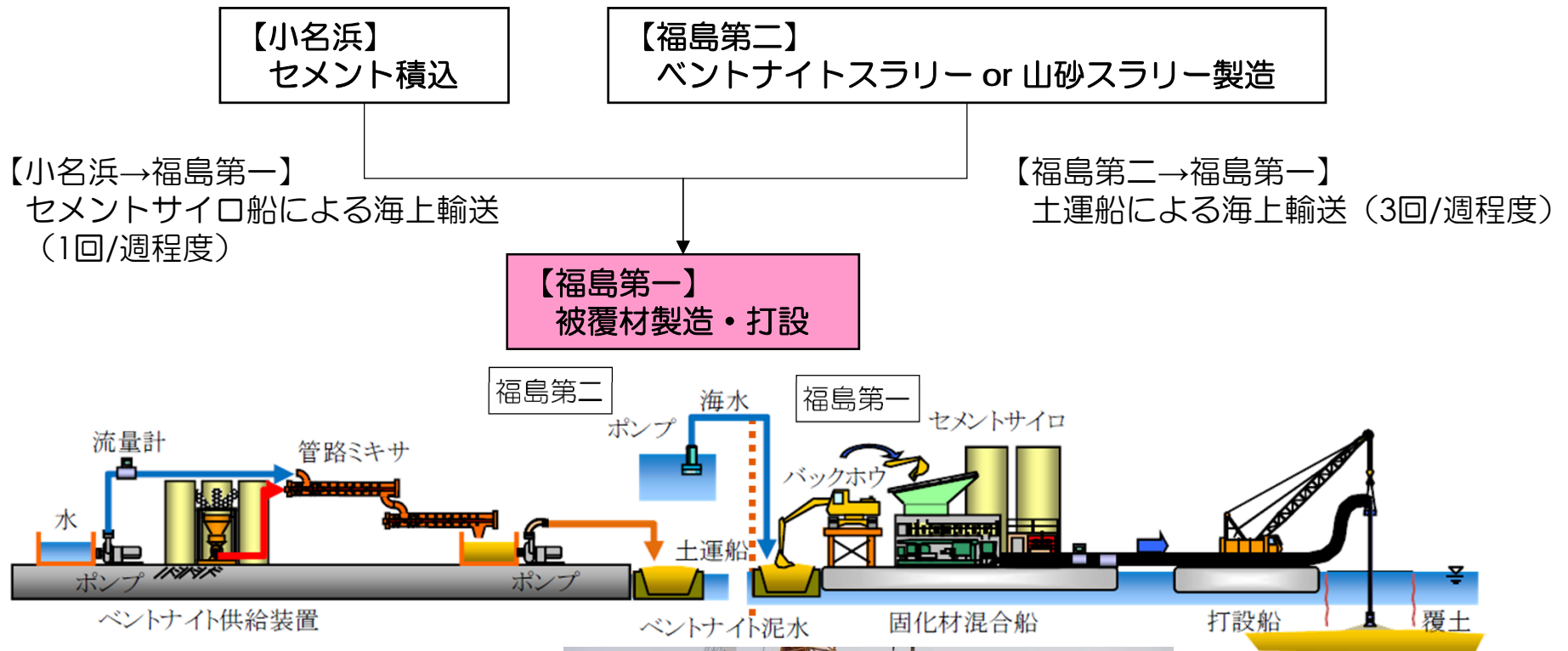
被覆面積：約18万m<sup>2</sup>

予定工期：H26.4～H27.3末【12ヶ月】（拡散防止を完了）

H27.4以降（必要に応じ、耐久性確保のための被覆）



## 2-2. 海底土被覆工事の施工方法



**トレミー管先端部**  
全方向にまんべんなく吐出し、海底土を巻き上げにくくするため、スプレッターと呼ばれる装置を装着